

2018年度（平成30年度）事業報告
(2018年4月1日から2019年3月31日)

1 学術研究会、学術講演会の開催

(1) 第59回日本神経学会学術大会をつぎのとおり開催した。

- ・大会長 佐々木秀直 北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野神経内科学教室 特任教授)
- ・会 期 2018年5月23日（水）から5月26日（土）までの4日間
- ・場 所 ロイトン札幌 他

(2) 学術大会運営について

① 第63回学術大会大会長に、服部信孝順天堂大学医学部神経学講座教授を選出した。

② 第60回学術大会（大会長 楠進近畿大学医学部神経内科教授）の準備を進めた。

第60回学術大会年次学術委員会が学術プログラムを、教育委員会学術大会教育プログラムワーキングが教育コースおよびレクチャーマラソンに関するプログラム策定を担当した。

③ 第61回および第62回学術大会の運営委託会社の選定を行い、株式会社日本旅行に決定した。

(3) 地方会開催

各地方会を次のように開催した。

北海道地方会（2回）、東北地方会（2回）、関東・甲信越地方会（4回）、東海・北陸地方会（3回）、近畿地方会（3回）、中国・四国地方会（2回）、九州地方会（4回）

2 学会誌の発行

(1) 臨床神経学の発行

① 機関誌「臨床神経学」58巻4号～59巻3号の全てを通常号で発行した。また、学術大会抄録はサプリメントとして発行した。いずれも電子ジャーナルである。

② 2017年度から第47巻以前の臨床神経学の電子化（PDF化）を進めてきたが、すべての作業が完了し、学会ホームページに掲載した（会員専用ページで、ID・PWが必要である。）。

(2) 英文機関誌の発行

英文機関誌「Neurology and Clinical Neuroscience」(Volume 6, Issue 3～Volume 7, Issue 2) を、隔月ごとに電子ジャーナルで発行した。

(3) 診療ガイドライン作成

① 新規のガイドラインとして作成を進めてきたジストニア診療ガイドラインおよび脊髄小脳変性症・多系統萎縮症診療ガイドラインを出版した。

また、改訂版として作成してきたてんかん診療ガイドライン、パーキンソン病診療ガイドラインを出版した。

HTLV-1 関連脊髄症（HAM）診療ガイドラインおよび筋強直性ジストロフィー診療ガイドラインについては引き続き作成を進める。

- ② 重症筋無力症診療ガイドライン2014、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー、多巣性運動ニューロパチー診療ガイドライン2013およびギラン・バレー症候群、フィッシャー症候群診療ガイドライン2013、3つの改訂版作成に着手した。
- ③ 2017年度に出版した認知症診療ガイドライン2017およびてんかん診療ガイドライン2018の英文版の作成準備を行った。作成完了後、両ガイドラインの英文版は、学会ホームページで公表する計画である。

3 啓発活動

（1）市民公開講座を次のとおり開催した。

- ・ 第59回学術大会開催時市民公開講座
2018年5月27日（日） ロイトン札幌
参加者数 430人

（2）広報活動

① 会員向けのニュースレター第4号を発行した。会員には、郵送で届けている。

② 医学生・研修医に脳神経内科の魅力を伝えるための「神経内科サマーキャンプ」を熊本会場（2018年6月）および四国（香川）会場（2018年8月）の2か所で開催し、多くの医学生等が参加した。

また、2018年7月、東京で行われた企業主催のレジナビフェアに参加し、医学生、研修医などに向けて脳神経内科の広報に努めた。

③ 昨年からは開始した本学会認定施設で行われる脳神経内科を紹介する説明会やセミナー等の企画を、本学会ホームページで紹介する事業を引き続き実施した。掲載施設数は10数施設増加した。

（3）医学生を対象とした学術大会への参加支援について

第59回学術大会に医学生を対象とする参加支援（交通費補助）を行った。そして、これまで学術大会が支援していたが、この支援を継続的に行うため今回から学会（担当広報委員会）が主催して行った。

（4）神経内科フォーラムの活動支援

昨年度に引き続き、神経内科フォーラムが企画・実施する脳神経内科と神経疾患を広報する活動を支援した。

（5）学会ホームページの充実

学会ホームページに掲載している一般向け「脳神経内科について」の記事を全面的に改訂した。

4 研究奨励

日本神経学会賞を選考した。受賞者は、次のとおりである。

(学術研究部門)

千葉大学医学部附属病院脳神経内科 三澤 園子

「稀少末梢神経疾患に対するドラッグ・リポジショニングによる新規治療開発」

(診療部門)

熊本大学大学院生命科学研究部神経内科学分野 安東由喜雄

「遺伝性アミロイドポリニューロパチー (FAP) の診断・病態解析・治療の実践とケアを目的とする総合センターの設立と運営」

日本大学医学部内科学系神経内科分野 亀井 聡

「神経感染症およびその関連領域における診療向上」

(所属は受賞決定時のもの)

5 研究推進

(1) 将来構想の検討

将来構想委員会を中心に、「神経疾患克服に向けた研究推進の提言」の見直しなど、本学会での研究活動に関する将来構想についての検討を進めた。

(2) 産官学連携について

産官学連携による若手創薬研修会「神経疾患に対する創薬トランスレーショナルリサーチを学ぶ」を2018年8月に東京医科歯科大学で開催した。

(3) 脳神経内科領域の症例登録システムについて

脳神経内科領域の症例登録のあり方について将来構想委員会の下にWGを設け、検討を開始した。2019年度も引き続き検討を行う予定である。

(4) 他団体との連携協力

神経内科学・脳科学に関する研究を推進するために、日本学術会議、日本医学会、日本脳科学関連学会連合、そして関連する他学会等と連携・協力して活動した。

6 専門医及び教育施設の認定

(1) 専門医

① 第44回専門医試験を次の日程で実施した。

・第1次試験 2018年6月9日(土)(東京大学教養学部駒場キャンパス)

・第2次試験 2018年7月14日(土)(日本都市センター会館)

新規認定者数は、214名であった。

② 第24回専門医認定更新を実施した。

2018年度末 専門医数は、5,906人である。

(2) 教育施設

① 施設認定更新

2019年4月1日から認定する施設認定について、認定手続き(新規及び更新)を実施した。
2018年度末認定施設数は、798施設である。

② 指導医認定

2019年4月1日から認定する指導医認定を実施した。また、2019年3月31日で認定期間が満了となる指導医の認定更新を実施した。
2018年度末指導医数は、2,933人

(3) 専門医制度

① 新専門医制度に基づく脳神経内科領域における専門医育成のための教育・研修を開始する。専攻医が研修する内容を登録できるシステムの整備を進め、完成した。2019年4月から運用を開始する予定である。

② 神経内科専門医の基本領域化については、神経内科基本領域化推進対策本部会議を中心に、日本専門医機構、日本内科学会など関係機関の理解を得るための活動を行った。

7 会員を対象とした教育及び啓発活動

(1) 生涯教育講演会

① 第59回学術大会時に第15回生涯教育セミナー(レクチャー・ハンズオンセミナー)を開催した。受講者数 903人

② Neuromuscular Conference 共催でハンズオンセミナー「神経・筋生検」を実施した。
受講者数 32人

③ 以下の支部で生涯教育講演会を開催した。

北海道支部、東北支部、関東・甲信越支部、東海・北陸支部、近畿支部、中国・四国支部、九州・沖縄支部。

(2) 専門医育成教育事業

① 第59回学術大会時に、第11回専門医育成教育セミナーを開催した。受講者数 284人

② 2018年12月9日(日)に千葉県船橋会場で第12回専門医育成教育セミナーを開催した。
受講者数 78人

(3) 新たに特別教育研修会として主に若手の会員を対象に脳卒中コースを2018年9月17日(月・祝)に東京・砂防会館で実施した。参加登録者数 145人

(4) 教育コンテンツ配信事業

2017年度から3か年計画で取り組んでいる GSK 教育事業助成制度の資金をもとにした WEB 利用の教育システムの整備に取り組んだ。

本年度は2年目で、教育用画像システムの整備と e-ラーニングシステムで配信する動画コン

テンツ制作を進めた。

(5) Excellent Teacher 表彰事業の実施

学会主催の教育セミナーの講師や教育用動画制作で教育活動に貢献した会員、2名を表彰した。

(6) 会員の研修支援事業の実施

会員の国内及び海外での研修を支援する事業を実施した。国内研修1名、海外留学支援5名支援した。

8 診療向上のための活動

(1) ICD-11 の疾患名和訳作業について

2018 年度に ICD-11 が公表され、神経領域の 3661 疾患について、厚生労働省からの要請を受け、和訳作業を行い終了した。

(1) 診療報酬改訂への取り組み

2020 年度診療報酬改訂に向けた準備を行った。

(2) 新薬承認審査の促進等に関する要望活動

神経疾患患者に対する医療の質の向上を図る一環として、必要に応じて新薬承認審査の促進等に関する要望活動を行った。

9 国際協力

(1) アジア地域の脳神経内科医との交流を通して神経学の向上に寄与する事業として、2018 年 11 月 29 日、30 日にマレーシア神経学会と合同シンポジウムを開催した。本学会から 4 名の講師を派遣した。

(2) WCN、AOCN など国際学術集会に学会員が積極的に参加するよう広報した。

10 その他の事業

(1) 災害発生時の対応について

2018 年 6 月に発生した大阪府北部地震、同年 7 月の西日本豪雨、さらに同年 9 月の北海道胆振東部地震それぞれの発生時に、日本神経学会災害対策ネットワークを発動し、被害状況の把握に努めた。いずれの場合も、被害状況から学会が支援活動を行う必要はなかった。

(2) キャリア形成促進事業

日本医学会が主催する働き方改革に関するフォーラムに参加するなど情報収集に努めるとともに、燃え尽き症候群に関する調査に着手した。

(3) アーカイブズ資料収集・管理事業

2017 年 9 月に開催した WCN 2017 の報告書を作成した。報告書は、学会ホームページに掲載している。

1 1 一般社団法人としての運営

(1) 代議員選挙

2019年の学術大会終了後から任期が始まる代議員選出のための選挙を行った。

(2) 役職員選出方法の見直しについて

あり方委員会の下に、WG を設置して理事および代議員の選出方法の見直しの検討に着手した。
まず、理事選出方法に関して、投票数の変更（理事定数上限から5票に）および支部枠など優先枠に補欠が生じた場合、当該優先枠から優先的に補充する案をまとめ、会員対象にした意見募集を行った。

この結果を受けて、検討を行進め、改正案を2019年5月の社員総会に提案する予定である。

(3) 日本医学会連合との連携

一般社団法人日本医学会連合に協力し連携を進めた。